

川沿いのまちづくり実現に向けたビジョン・方針

1

全体ビジョン

千代田区に住み・働き・学び・訪れる人々で共有する、千代田区の川沿いのまちづくりの将来像として以下の全体ビジョンを定めました。

江戸から紡ぐ歴史を暮らしの舞台に ～人が集う川づくり～

千代田区内の河川は、江戸時代から生活に欠かせない輸送経路であり、水運を中心としたまちの発展に寄与するとともに、様々な人々の活動・交流を生み出してきました。

しかし、時代の移り変わりとともに、川沿いの空間は変化し、川の存在はまちと離れたものになっています。

そこで、川とまちが一体となった歩きやすく、水と風を感じることができ、まちとまちをつなぐ空間を創出し、かつてのように、川を人々の生活にとって身近で居心地の良い場所となるようまちづくりを進めていきます。千代田区における川の歴史だけでなく、まちとそこで活動し、滞在する人々をつないでいく川沿いのまちづくりを目指します。

このような認識のもと、川沿いのまちづくりの実現に向けた全体ビジョンを「江戸から紡ぐ歴史を暮らしの舞台に～人が集う川づくり～」と定めます。

2

川沿いのまちづくりの方針



全体ビジョン（将来像）の実現に向けて、4つの川沿いのまちづくり方針を定めました。この方針に基づき、千代田区内の多様な活動主体の取組みを推進していきます。

[全体ビジョンに向けた4つの方針]

方針
1

川に人々の意識を向ける ～川の魅力の再発信～

川のポテンシャルを知り、人の意識を向けまちづくりとしての価値を高めます。

方針
2

川に開いたまちづくり ～水を活かした空間の創出～

川を基軸にまちづくりを進めていき、川に開いた部分を増やします。

方針
3

水辺空間の連続性 ～水辺の拠点を結ぶネットワークの構築～

川に開いた場所をつなぎ合わせ、質の高い空間の連続性をもたせます。

方針
4

川を使う ～遊び場としての川沿いの活用～

川沿いの活用を推進します。多くの人が足を運びたくなる環境づくりを行います。

江戸から紡ぐ歴史を暮らしの舞台に～人が集う川づくり～



方針
1

川に人々の意識を向ける ～川の魅力の再発信～

(1) 川沿いの魅力の再発信

- 駅や施設等の拠点から水辺へのルート上にわかりやすい案内サイン等を設置するなど、歩きやすい川沿いの演出を推進します。
- 川だけでなく、周辺の施設と連動したイベント等を推進することで、川の魅力を一層向上させ、川沿いの賑わいを創出します。



▲川沿いのランタンイベント(長崎県)

(2) 川の環境整備

- 「汚い」「臭い」という川に対するマイナスイメージを改善するため、日本橋川・神田川については、東京都及び隣接区と連携し水質改善に向けた取組みを推進していきます。また、外濠については、東京都が策定した「外濠浄化に向けた基本計画」などと連携し、推進します。併せて、生物が住める環境の整備を推進します。
- 川沿いを歩いて気持ちの良い空間とし、川沿いで人々の活動が創出されるように、まちから川が見え、まちとのつながりが感じられるような建築・修景等を推進します。
- コンクリート堤防と水面に、新しい緑化による景観と生態系の創出を推進します。



▲日本橋川の河川内緑化

(3) 川の歴史を知り、歴史景観を守る

- 川沿いにある建築物や橋りょう、石垣の歴史についての情報を広く伝えるなど、多くの人が川に興味を持つ環境づくりを推進します。
- 神田川の渓谷など川沿いにある歴史景観を広く伝え、守るよう努めます。
- 水面からの景観に配慮したまちづくりを推進します。

川に開いたまちづくり ～水を活かした空間の創出～

(1) 川を近づきやすいものにする

- 歴史資源等を活かしたまちづくりや橋りょうの演出を推進することで、千代田区民の歴史に対する認知度の向上と、川沿いの空間に対する愛着の形成を図ります。
- 川辺や建築物等から川を眺めることができるビューポイントの創出や、駅や施設等の拠点と川を結ぶルート of 構築、その案内の設置等、川と人をつなぐ環境の整備を推進します。

(2) 川沿い空間の活用の幅を広げる

- 防災船着場は、水面とまちをつなぐ重要なポイントであることから、非常時だけでなく日常的な舟運等の活用を検討します。
- 橋詰広場の川への近接性を活かし、人々が川の近くで憩い、活動できる場所の創出を推進します。
- 川に顔を向けた建築物がつながりをもって立ち並ぶよう、川を意識した建築物の建て替えや開発等を推進します。
- 人々が川沿いで憩えるような空間の形成に向け、川沿いの公共空間（道路や広場）と民間建築物が連携を図るよう働きかけます。
- 川を活かした取組み・交流を行い、川に関する情報の発信等ができる拠点の設置について検討します。
- 首都高速道路の改修や隣接地での大規模開発行為などのまちづくりの動きに伴い、首都高速道路の地下化について地域から要望があがった際には、関係各所へ要請していきます。



▲現在の防災船着場(新三崎橋)



▲大手町川端緑道でのキッチンカー出店



▲拠点場のイメージ(大阪府・β本町)

方針
3

水辺空間の連続性 ～水辺の拠点をつなぐネットワークの構築～

(1) 歩きたくなる川沿いを作る

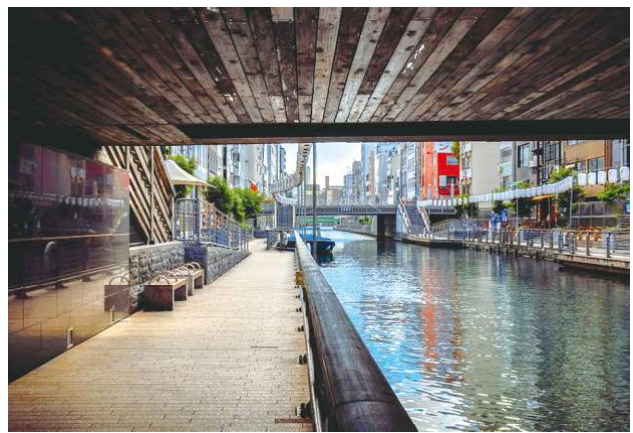
- 子どもから高齢者まで幅広い世代に対し、川沿いを居心地が良く歩きたくなる場所とするため、民間敷地の歩道上空地と公共空間をつなげる取組みや滞留空間の創出を推進します。
- 川と地域資源のつながりを強化し、質の高い空間の連続性をつくることでウォークアブルなまちづくりを推進します。
- まち中にある賑わい施設や人の活動動線を川沿いにつなげ、まちから川沿いへのネットワークの構築を図ります。
- 川沿いの景観を楽しめるビューポイントの創出を推進します。



▲管理用通路を用いた歩行者空間(大阪府・道頓堀川)

(2) 水面の豊かなネットワークを作る

- 防災船着場を活用した舟運の定期的な運航により、周辺区の観光スポットを回遊する観光船や、新たな交通ネットワークの構築について検討します。
- 川と人の距離を近づけるため、橋りょう下の空間を、歩行者空間として活用することや、橋詰広場とつなげることを検討します。
- 川を軸にした周辺の道路、建築物とのつながりを重視し、開けたまちづくりを推進します。
- 川沿いの史跡・拠点等のつながりの形成を推進します。



▲橋りょう下の空間をつなげる(大阪府・道頓堀川)

方針
4

川を使う ～遊び場としての川沿いの活用～

(1) 川沿いの遊び場としての活用

- 川に関わる多様な主体が川を通じて交流できるように、川での活動やイベント等を推進します。
- 水面で遊ぶ場や川沿いで川を見て楽しむ場の創出を推進します。
- 川沿いの空間が、子どもから高齢者まで安全・安心に利用できる空間となるよう誘導します。
- 地域主導で実施するエリアマネジメント活動を推進します。



▲川沿いのイルミネーション

▲千代田区エリアマネジメント活動推進ガイドライン

(2) 川の活用に向けた環境の構築

- 川沿いのオープンスペース等が、地域の季節行事やイベント等で活用しやすい場となるような環境づくりを推進します。
- 防災船着場を常時閉鎖するのではなく、地域等で活用できる場所としていくことを検討します。
- 川を活用した活動の拠点の創出を推進します。



▲防災船着場の利用(和泉橋)

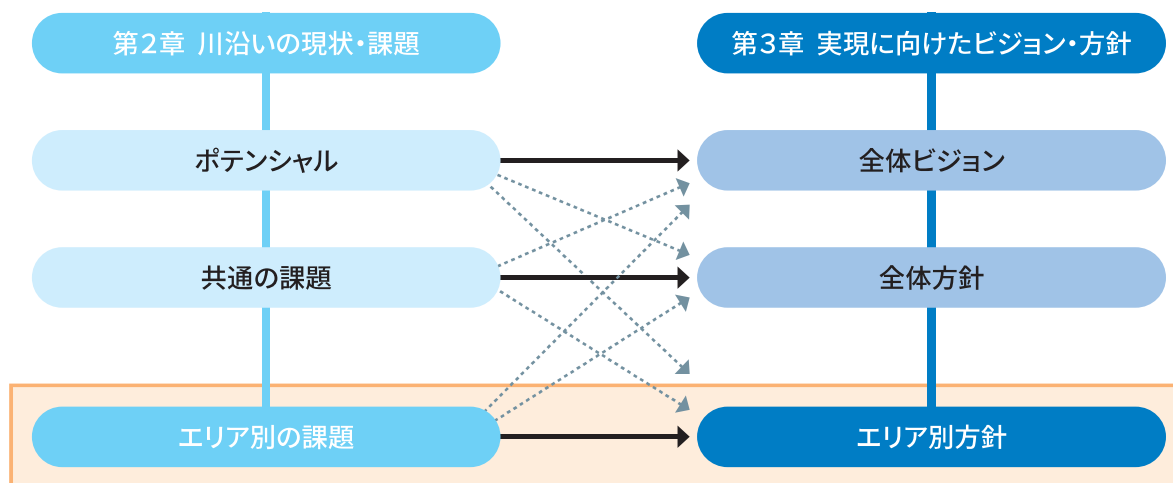
3

エリア方針・エリアカルテ



[エリア方針について]

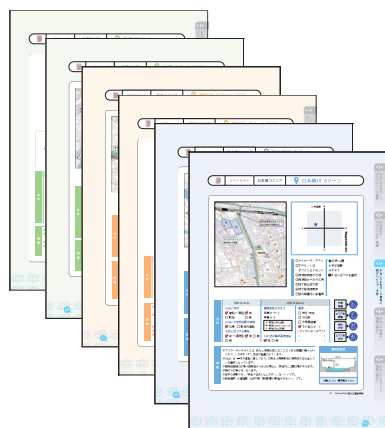
エリア別の課題を改善するために、全体方針とは別にエリア方針を定めて川沿いのまちづくりを推進します。



[エリアカルテについて]

エリアカルテとは、今後、川沿いにおいて、開発や建築物の建て替え等のまちづくりが動く際に、地権者又は建築事業者等が川沿いのまちづくりを進めていくための参考資料です。

エリアカルテは、第2章で確認した川沿いの現状と全体的な課題、エリア別の課題・方向性を分かりやすく示し、第3章の、将来のビジョン、全体方針とエリア方針を基にまちづくりについて考えるきっかけを与えるものとなります。



川沿いの分析	文化財
地域資源	史跡
空地	大規模店舗
公園・広場	ホテル
駅舎	橋りょう

地域の賑わいと川沿いを
つなげることも大事だね

